

理解すること

中学校三年

私はこの作文のテーマを、母の病氣のことについて書きたいと思いました。しかし、いざ書こうとなると母の病氣のことについて何も知らないことに気がつきました。家族の持つ病氣を知らないことに恥ずかしさを感じました。しかしだからこそこの機会に知るべきだと思い、母に病氣について聞いてみました。

母の病氣は発熱や激しい炎症を繰り返す、非常に希少な難治性の病氣です。日本での患者数は百名程です。私の弟も同じ病氣を持っています。

ある寒い日の冬のことです。弟が高熱を出しました。こんなときは頭を冷やすと痛みやつらさをやわらげることができのを知っているので気づいたときは手伝うようにしています。でもなぜかいつも少しくやしい気持ちがあります。私はなぜ「くやしい」という気持ちになったのか考えました。そして結論として私はその病氣でないのでつらさが分か

らないことなのだと思います。どうその人の気持ちを考えても痛みやつらさは考えられません。毎回、痛そう、つらそうなど「○○そう」という言葉で終わってしまったているのです。そのことを私はくやしいと思っていたのだと思います。家族なのできつとほかの人よりかは分かることがあると思います。しかし、本当のつらさや痛みはその本人にしか分かりません。そのことを私は家族としてとてもさみしく、そして、くやしく思います。

この作文で、母に私の考え、思ってきたことを伝えると、母が手紙を書いてくれました。その手紙は、「分かるようになってくれていることがうれしい。本人しか分からないことも同じ目線で見て考えようとすることはそれも理解の一つにつながると思う。そういう思いを持つ人がいてくれることで支えられるし、生きていける。」と書かれていました。私はまずこうやって返事をもらえてとてもうれしかったです。そしてこんな私の思いが母を救っていると思うと、私にも母の力になれることがあるのだと思えました。また、私に寄り添ってくれる母がいてくれることが何よりも幸せなことなのだと思います。

病気なんて関係なく、私のことを大事に思っ
て、たくさん無理をしつつも育てあげてくれた母には
感謝しかないです。私はこうやって思うだけでつら
さや痛みを理解できていないけれど、母が教えてく
れたように何事にも同じ目線で見ても考え行動でき
る、そんな人になりたいです。そして、人のつらさ
や痛みを少しでも分かろうと寄り添える人になり、
人の気持ちを救えるようになりたいと思います。